

中学生むき

夏休みにおすすめの本

『名探偵カッレくん』

アストリッド・リンドグレン/作 岩波書店 GY-リ

名探偵をめざす少年カッレは、隣の家に来たエイナルおじさんを不審人物とみなします。合鍵やピストルを持っており、おじさんを追う怪しい2人組の男まで現れます。カレは、おじさんが宝石強盗という証拠をつかみませんが、地下室に閉じこめられてしまいます。

『ツバメ号とアマゾン号』

アーサー・ランサム/作 岩波書店 GY-ラ

夏休み、ウォーカー家の4人きょうだいは、小帆船ツバメ号で湖を探検し、海賊旗をあげたアマゾン号を見かけます。翌朝、4人のキャンプ地に矢が打ち込まれ、アマゾン号の少女2人が現れました。4人は、アマゾン号を分捕るため、夜の湖へ出て行きました。

『ロビン・フッドのゆかいな冒険』

ハワード・パイル/作 岩波書店 GY-パ

12世紀のイギリス、シャーウッドの森におたずね者のロビン・フッドが住んでいました。彼は、140人もの野武士たちの隊長として、大貴族やお金持ちの僧侶や大地主たちからは金を奪い、貧乏な人々には分け与え、毎日を面白おかしく暮らしていました。

『時の旅人』

アリソン・アトリー/作 評論社・岩波書店 GY-ア

ロンドンに住む少女ペネロピーは、体が弱く転地が必要になり、姉と弟とともにサッカー農場のおばさんの屋敷に預けられます。ペネロピーはある日偶然開けたドアの向こうに、昔の衣装を着た現実にはいるはずのない4人の貴婦人を見ました。そしてこの時からしばしば300年前の世界に入り込んでしまいます。

『ニワトリ号一番のり』

J. メイスフィールド/作 福音館書店 GY-メ

19世紀、中国から英国へは海路で三月かかり、シナ茶を運ぶ帆船は毎年名誉と賞金をかけて先着を競っていました。二等航海士クルーザーの船は優勝候補でしたが衝突事故で沈没します。クルーザーは生き残った船員たちとボートで漂流中、なぜか無人で漂うニワトリ号を発見して乗りこみます。クルーザーが指揮をとるニワトリ号は遅れをとりもどして接戦のすえ優勝します。

『冷たい心臓』

ヴィルヘルム・ハウフ/作 福音館書店 GY-ハ

隊商の一群が砂漠の中を進んでいると、馬に乗った1人の男が現れて旅に加わります。その男と隊商の主たちが退屈しのぎに不思議な物語を順番に語る『隊商』や、盗賊が出没するという森の宿屋に泊まりあわせた男たちが、物語を語り合って夜明かす『シユペッサルトの森の宿屋』など、3つの物語が収められています。

『コンチキ号漂流記』

トール・ハイエルダール/著 偕成社 299-へ

1947年当時南太平洋のポリネシア人は東南アジアから渡来したとされていましたが、著者は伝説や言語や文化の類似性からポリネシア人の祖先は南米から太平洋を越えてきたと考えます。著者はその仮説を証明するため、南米ペルーから南太平洋の島までいかだで航海する計画をたてます。5人の仲間と協力していかだを作り、太平洋を渡った約百日間の記録。

『約束の国への長い旅』

篠輝久/著 リブリオ出版 289-ス

1940年夏、第二次世界大戦にゆれる小国リトアニアで、ナチスに追われるユダヤ人難民が日本領事館につめかけ、必死にビザを求めました。日本領事杉原千畝は、日本政府の命令に反して、大量のビザを出す決断をします。

六千人のユダヤ人の命を救ったひとりの日本人の人間記録。

『シェパートン大佐の時計』

フィリップ・ターナー/作 岩波書店 GY-タ

大工の息子デイビドは、片足が不自由ですが想像力豊かな少年です。彼の家に預けられたままの古い大時計は、謎の死をとげたシェパートン大佐のものでした。デイビドは2人の友人―農場の息子で活動的なアーサー、牧師の息子で発明好きのピーター―とともに、大佐の秘密を調べ始めます。

『運命の騎士』

ローズマリ・サトクリフ/作 岩波書店 GY-サ

城の犬飼だった孤児ランダルは、荘園ディーンに引き取られ、領主の孫ベービスと兄弟のように育ちました。

2人の若者の生涯をかけた友情を描いています。また、中世の騎士道やノルマン人が英国を征服していく様子も興味深く、歴史を身近に感じられます。

『ホビットの冒険』

J.R.R.トールキン/作 岩波書店 GY-ト

気のいいホビット小人族のビルボが、ある日、魔法使いガンダルフの誘いによって13人のドワーフ小人とともに思いがけなく冒険の旅に出ます。魔法の指輪を手に入れたビルボとその一行は、宝を奪った竜に戦いを挑みます。『指輪物語』のはじまりの物語です。

『二年間の休暇』

J.ベルヌ 福音館書店 GY-ヴ

孤島に打ち上げられた少年たちが、力をあわせて種々の困難を乗り越え、自分たちの生活をつくり上げていく冒険物語です。

『十五少年漂流記』としても知られています。様々な苦しみにあっても、友情と団結をもって生きようとする少年たちの姿が描かれています。

『クローディアの秘密』

E.L.カニグズバーグ/作 岩波書店 GY-カ

計画をたてるのが得意できちんとしたことが好きなクローディアは、口がかたくお金持ちの2番目の弟ジェイミーを仲間を選んで、メトロポリタン美術館に家出します。そこでこっそり暮らすうちに、2人はミケランジェロの作品とされる天使の像に興味を持ち、その謎を解こうとします。

『コーンウォールの聖杯』

スーザン・クーパー/作 学研 GY-ク

3人のきょうだいがある夏の1カ月間、アーサー王伝説の地コーンウォールにあるおじさんの家で過ごすことになります。家の中を探検していると、洋服だんすの後ろに屋根裏部屋が見つかり、宝物の地図が出てきます。古文書でどうやらアーサー王に関係があるらしいのです。3人はその謎を解こうとするうち悪と対決することになりますが、危ないところで宝の聖杯を手に入れます。

『はてしない物語』

ミヒャエル・エンデ/作 岩波書店 GY-エ

少年バスチアンは読んでいた本に呼びかけられます。-ファンタージェン国は、“虚無”におかされ滅亡寸前で、それを救うには、人間界から子どもを連れてくるほかないと。バスチアンは物語の呼びかけにこたえて、本の世界に入り込み、そこで出会ったアトレーユと不思議な冒険にまきこまれます。

『足音がやってくる』

マーガレット・マーヒー/作 岩波書店 GY-マ

大叔父バーナビーが死んだ日、少年バーニーは、空中から男の子の幽霊がゆっくり現れるのを見ます。やがて、バーニーは不思議な足音を聞くようになります。足音は日ごとに近づき、バーニー一家は次第にパニック状態に追い込まれていきます。

『地下の洞穴の冒険』

リチャード・チャーチ/作 岩波書店 GY-チ

夏休みに田舎の親戚の家に預けられていたジョンは、ある日古めかしい洞穴の入口を見つけました。ジョンはこの洞穴を探検することを思いつき、秘密のクラブの仲間を集めて作戦会議を開きます。5人の少年たちは、準備を整え、大きな暗い未知の洞穴に入っていくのですが、途中で思わぬことから2人の少年たちが深い穴の中に取り残されてしまいます。